

多治見砂防国道事務所80周年記念事業 現場見学会

妻木てくてく いにしえロマン 「妻木の歴史文化と砂防を気軽に楽しく学習しよう」開催しました。

平成29年5月13日(土)、雨は何とか上がり曇り空の下、地元小学生などスタッフを合わせ総勢20名で妻木の歴史文化や砂防について学習しました。まず妻木公民館で妻木町の模型を用いてその日見学する施設の位置を確認しました。最初に現在工事中の鍛冶ヶ入(かじがいり)第5砂防堰堤を見学し、現在の砂防堰堤について学びました。その後、登録有形文化財に登録されている浦山第2砂防堰堤を見学し当時の高度な石積技術を見学しました。その他、妻木城土屋敷跡(さむらいやしきあと)や八幡神社(はちまんじんじゃ)、崇禅寺(そうぜんじ)などの史跡を訪れ妻木城址の会の方、八幡神社の禰宜(ねぎ)さん、崇禅寺の住職さんに貴重な妻木町の歴史などのお話を聞くことができました。



まずは、妻木公民館に展示してある妻木町の模型で今日見学する場所の確認をしました。その他、城山の模型や妻木城主が身に付けた鎧甲冑などが展示してありました。

鍛冶ヶ入(かじがいり)第5砂防堰堤では現在工事中の砂防堰堤を見学し、堰堤の造り方や鋼製のスリットが流木を止める仕組みを勉強しました



登録有形文化財として登録されている浦山第2砂防堰堤では「再現することが容易ではない」という石積の技術を見学することができました。



八幡神社は、元応元年(1319年)に建立したとも云われ妻木城主の氏神として手厚く保護されてきました。流鏝馬が行われる広い参道や社殿は68段の石段の上に建っています



妻木城土屋敷跡(さむらいやしきあと)では、旗本妻木氏の陣屋や住居があった所で当時の石垣や井戸跡を見学しました。



崇禅寺は土岐明智氏の初代頼重が文和三年(1354年)に創建しました。妻木城主代々の位牌や墓所があります。



参加記念の SABOカード

